

# 令和6年度 墨田区立二葉小学校 学校経営方針

墨田区立二葉小学校長 山崎 隆

## 1 目指す学校像

- ◎人間尊重の精神に徹し、自己を確立しながら、広く国際社会に生きる人間性豊かな実践力のある児童を育成する。(教育目標より)
- ◎自分のよさや可能性を認識し、他者を価値ある存在として尊重し、協働しながら持続可能な社会の創り手となる児童を育成する。(中教審答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して より)
- ◎日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上を図る。(R5.6.16 第4期教育振興基本計画 より)

そのために、次の4つを柱にして全教職員が一丸となって活気に満ちた学校づくりをする。

- 教育目標が児童の日々の生活に目に見える姿として表れている学校(自己実現、幸福感)
- 心の通い合う温かさがあり、明るく清潔で安全な教育環境をつくり出す学校(安全安心な環境)
- 教育機能発揮に向けて、保護者や地域、関係者と連携して児童を育む学校  
(学校や地域でのつながり)
- 教育への使命感と責任のもと、協働と研鑽で充実した教育を推進する学校  
(教職員のウェルビーイング)

## 2 教育目標 ～目指す児童の姿～

- (1) 自分でつくる丈夫な体(心身の健康)  
自分から進んでたくましい体力をつくるとともに、安全に生活する態度を育てる。
- (2) 自分で取り組む確かな学習(自己実現)  
自分から進んで学習に取り組み、正しく判断し創造的に解決にあたる態度を育てる。
- (3) 自分で深める温かく強い心(自己肯定感、多様性への理解)  
自他を大切に、思いやりの心を深めながらねばり強くやり遂げる実践的な態度を育てる。
- (4) みんなで築く楽しい生活(協働性、利他性)  
集団の一員としての自覚を深めながら協力して仕事をし、楽しい生活を築く態度を育てる。

## 3 具体的な方策

**教育目標が児童の日々の生活に目に見える姿として表れている学校**(自己実現、幸福感)

- (1) 自分でつくる丈夫な体(心身の健康)
  - ① 体育や日常の運動の場の工夫による運動量の確保、体力向上(両中体育、仮称第二校庭の活用)
  - ② 感染症等病気の予防、怪我の防止
  - ③ 家庭と連携した基本的生活習慣の確立
  - ④ 授業や日常生活における体幹づくり
  - ⑤ 地域行事、区行事との連携による運動の励行
  - ⑥ オリンピック・パラリンピックレガシーの継承
- (2) 進んで取り組む確かな学習(自己実現)
  - ① 「週ごとの指導計画」(週案)によるカリキュラムマネジメント、P・D・C・A サイクルに基づいた計画的な学習指導

- ② 「のびる二葉の子」(学習編)の徹底による学習規律の確立
  - ③ R3・4墨田区教育委員会研究協力校、R5 特色ある学校づくり推進校の研究実践を踏まえた授業の充実
  - ④ 「学びに向かう力」を発揮させる「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実
  - ⑤ 墨田区学習状況調査等の結果を踏まえた実践的な授業改善
  - ⑥ 東京都小学校教科担任制等推進校の取組による、教科の専門性を活かした学力向上
  - ⑦ 全教育活動を通じた言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成
    - ・「すみだ GIGA スクール構想」に基づく1人1台のタブレット端末及び児童用デジタル教科書を活用した授業実践
    - ・学び合い、話し合い活動の推進
    - ・読書活動の推進
    - ・プログラミング教育の推進
  - ⑧ 学びの過程(学習指導要領解説総則編 P36-37)を重視した問題解決型学習による、知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力、人間性の涵養
  - ⑨ 少人数指導、朝学習、ぐんぐんのびる二葉タイム、チャレンジ教室(2年生)等による基礎基本の定着
  - ⑩ タブレット端末を活用した家庭学習の工夫
- (3) 自分で深める温かく強い心(自己肯定感、多様性への理解)
- ① 全教職員による協働した生活指導
    - ・東京都小学校教科担任制等推進校の実践(副担任制等)による組織的な生活指導
    - ・一人一人の児童を全教職員で育てる意識・姿勢・取組
  - ② 言語環境の整備、環境美化による豊かな情操の育成
    - ・人の話を聞ける子
    - ・返事、あいさつができる子
    - ・正しい言葉遣いができる子
    - ・靴箱の靴をそろえられる子
    - ・掃除がしっかりできる子
  - ③ 児童の心に訴える道徳教育・人権教育
    - ・他者を思いやり、差別意識をもたない子
    - ・東京都及び墨田区の取組を踏まえた人権教育
    - ・特別の教科「道徳」を核とした道徳教育の充実
    - ・多様性を認め合う教育
  - ④ 幼保小中一貫教育による健やかな心の育成
    - ・就学前教育との連続性
    - ・東京都小学校教科担任制推進校の実践を踏まえた中学校との連携による学習規律や生活指導面の共通理解
    - ・あいさつ運動の実施
  - ⑤ 地域学習の充実
    - ・地域人材や施設、環境、学校支援ネットワーク等の活用

・地域に学び、愛着を深める学習

(4) みんなで築く楽しい生活(協働性、利他性)

① 交流活動の工夫によるコミュニケーション力の育成、良好な人間関係の構築

- ・異年齢による交流学習
- ・縦割り班活動
- ・地域の方との交流・体験学習
- ・二葉まつり
- ・各種集会

② 特別支援教育の推進(サポートを受けられる環境)

- ・特別な配慮や支援を必要とする子供への対応(東京都公立学校の教員としての資質の向上に関する指標 令和5年2月改定)
- ・特別支援教室巡回指導の充実
- ・副籍交流の推進

**心の通い合う温かさがあり、明るく清潔で安全な教育環境をつくり出す学校** (安全安心な環境)

(1) 「生徒指導提要」(改訂版 令和4年12月6日文部科学省)の理解と活用

(2) いじめの未然防止、早期発見と情報共有、組織的解決、保護者・地域との連携

(3) 区ガイドラインを踏まえた不登校及び長期欠席傾向の児童への支援

(4) 関係機関との連携による児童虐待の防止・早期対応、ヤングケアラーについての理解

(5) 相談体制の充実

- ・SOS の出し方に関する授業

※(2)(3)(4)(5)の取組に、東京都小学校教科担任制等推進校の推進体制を活かして情報共有や組織的対応を進める

(6) 防災・安全教育と災害時の対応

- ① 安全教育プログラムや東京マイ・タイムライン等補助教材の活用
- ② 避難訓練・安全指導の徹底による危険回避能力の育成
- ③ 地震・津波等非常災害時の組織的で即時性のある対応

(7) 教室環境、学校環境、自然環境の整備・活用

- ① 教室掲示、板書、ユニバーサルデザイン、最新の掲示物(掲示板等)
- ② 植栽、植物の有効活用

(8) 日常的な危機管理の徹底

- ① 授業中、休み時間の安全管理
- ② 食物アレルギー事故の防止、素早い対応
- ③ 定期的な安全点検

(9) 校舎改築に伴う児童の安全確保の徹底

**教育機能発揮に向けて、保護者や地域、関係者と連携して児童を育む学校** (学校や地域でのつながり)

(1) 教育活動の意図的・計画的・積極的な発信や公開

- ① 学校だより、学年だより、学級だより、ホームページ、COCOO、地域向け掲示板等による発信

- ② 授業や学校行事の積極的な公開
- ③ 地域行事との連携
- (2) 保護者・地域・関係者の声を生かした学校運営
  - ① PTA 役員会・PTA 組織との連携
  - ② 学校運営連絡協議会による相互理解を通じた教育活動の実践
  - ③ 学校関係者評価・第三者評価を活かした教育活動の改善

**教育への使命感と責任のもと、協働と研鑽で充実した教育を推進する学校** (教職員のウェルビーイング)

- (1) 教職員集団の「同僚性」の構築
  - ① 被援助志向性(自己開示)とソーシャルサポート
- (2) 「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学び
  - ① 教師自らの主体的な学びのマネジメント
  - ② 個別最適・協働的な教師の学び
  - ③ 適切な目標設定と現状把握
  - ④ 自らの経験や他者から学ぶといった「現場の経験」も含む学び
 →「学び続ける教師へ」
- (3) 教員のステージに応じた OJT の推進と教員の指導力向上
  - ① 学習指導力、生活指導・進路指導力、外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力
  - ② 指導教諭の授業公開への積極的な参加と校内 OJT によるフィードバック
  - ③ 特別な配慮や支援を必要とする子供への対応(再掲)、デジタルや情報・教育データの利活用、教育課題(人権教育、道徳教育、グローバル人材育成、不登校対応、いじめ防止・自殺予防、安全教育)に関する対応
  - ④ キャリアプランに基づくキャリアアップ
  - ⑤ 主幹教諭、主任教諭層によるミドルリーダーの育成
- (4) サービスの厳正
  - ① 体罰や不適切な言動によらない指導の徹底
  - ② 個人情報の管理
  - ③ サービス事故の根絶
- (5) 組織的な学校運営
  - ① 校務分掌の活性化による活力ある学校運営
  - ② プラス思考の企画力・創造力・プレゼンテーション力  
・改修工事等を踏まえた教育活動
  - ④ 適正・迅速な文書決済
  - ⑤ 教育効果を高める予算執行
- (6) 学校における働き方改革の推進
  - ① ワークライフバランスを意識した業務・就業時間のマネジメント(定時退庁日の設定)
  - ② 職務の工夫・改善
  - ③ メンタルヘルス